

# 令和4年度 再評価点検表（内部評価）

## 1 事業概要

事業名	大阪はびきの医療センター新病院整備事業
担当部署	大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター新病院整備グループ
事業箇所	大阪府羽曳野市はびきの3-7-1
再評価理由	総事業費の高騰
事業目的	<p>大阪はびきの医療センター（以下「当センター」という）は、建設後約40年余り経過し、老朽化が著しく、早急に抜本的な施設改修が必要な状態である。</p> <p>当センターでは、先進性、専門性を発揮して政策医療を提供するとともに高度専門性を活かして地域の医療ニーズに応えているが、医療機能上の課題として、手術室や外来、放射線検査等のスペースの不足、結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染のリスク、全病床への医療ガス設備の未整備、地域包括ケア病棟の施設基準不適合などの課題がある。</p> <p>また、患者の療養環境上の課題として、個室病室の不足や外来待合の狭隘化、診察時のプライバシー確保が不十分、小児の体格に不適応な小児科病棟、狭い病室で重い木製の開き戸などの課題がある。効率的な運営の問題として、開院当時の1,000床病棟を運用することによる非効率な維持管理や人員配置などの課題がある。これらはいずれも、現状の施設では限界である。</p> <p>当センターの建て替えを行い、医療機能を強化することによって、先進性・専門性を発揮した政策医療の推進、結核・感染症、呼吸器疾患治療における併発症への対応、高度専門性を活かした地域医療への貢献等、一層積極的に取り組み、地域の基幹病院としての役割を果たしていく。</p>
事業内容	<p>【計画（主な施設）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建物構成：本館棟（病棟、外来、管理部門等）</li> <li>○ 病床数：405床</li> <li>○ 延床面積：34,199㎡</li> <li>○ 敷地面積：90,715.81㎡</li> <li>○ 整備手法：デザインビルド方式</li> </ul>
事業費 ( )内の数値は 事前評価時点のもの	<p>全体事業費：約212.2億円</p> <p>(内訳) 工事費等 約180.5億円(約146.0億円)</p> <p>医療機器 約31.7億円(約10.0億円)</p> <p>【工事費等の内訳】</p> <p>工事費 約144.5億円(130.5億円)</p> <p>設計費等 約5.7億円(6.5億円)</p> <p>撤去・外構工事費等 約30.3億円(9.0億円)</p>
事業費の変更理由	資材価格の高騰
維持管理費	21.9億円/年（長期収支（中財展）の経費（委託料、賃借料、光熱水費、事務的経費等を含む）より算出）

## 2 事業の必要性等に関する視点

	事前評価時点 H29	再評価時点 R4	変動要因の分析
事業をめぐる社会 経済情勢等の変化	<p>事前評価時点における建設事業費は、平成26～28年度の過去3年間の病院建設契約実績額をベースに算定していた。</p> <p>また、撤去費については、見積ではなく公共工事の過去事例を参考に算定していた。</p>	<p>平成30年度の基本設計で、建設工事費や撤去費を積み上げたうえで適正価格を再検討し、令和元年12月に令和4年12月末までの実施設計・施工一括発注方式の業務委託契約を締結することとなった。</p>	<p>平成30年度の基本設計及び令和2年度の実施設計で手法や金額を精査、事前評価時から設計内容についても一部変更が生じたことで事業費が増嵩した。また、事前評価時点で見込んでいなかった撤去費・外構工事費等を精査の上、事業費に計上した。</p>
地元の協力体制等	—		
	事前評価時点 H	再評価時点 R	変動要因の分析
事業の投資効果 ＜費用便益分析＞ または ＜代替指標＞	<p>＜費用便益分析＞</p> <p>本事業については、費用便益の測定手法が確立されていない。</p>	同左	—

<p>事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)</p>	<p><b>【効果項目】</b></p> <p>&lt;安心・安全&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 免震構造の採用によって、災害時でも医療機能が継続できる施設とする。</li> <li>○ 災害時の負傷者の収容・トリアージ等のスペースの設置、エントランス・講堂等への医療ガス配管やネットワーク環境の整備を行い、災害発生時の患者受け入れが可能な施設とする。</li> </ul> <p>&lt;活力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員が働きやすく、コミュニケーションの活性化を促進できる施設・設備を整備することで、職場環境の改善、職員の活力向上が実現される。</li> <li>○ 当センターでは、行政や学校関係者を対象に、アレルギー・感染症対策などの教育啓発活動に力を入れており、新病院でも教育・研修等、多目的に利用できる会議室及びカンファレンス室を整備することで、より一層の活動の充実が期待できる。</li> </ul> <p>&lt;快適性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の狭隘化を解消すること、小児・高齢者・障がい者等、様々な患者が利用しやすいよう、施設・設備のデザイン等に配慮することで、療養環境が改善される。</li> <li>○ 近接性を考慮した部門配置、スタッフと患者の動線分離等によって、患者・職員の双方にとって安全で便利な移動が実現される。</li> </ul> <p><b>【受益者】</b></p> <p>患者、地域住民、周辺医療機関等、職員</p>
---	---

	事前評価時点 H29	再評価時点 R4	変動要因の分析
<p>事業の進捗状況</p> <p>&lt;経過&gt;</p> <p>①事業採択年度</p> <p>②事業着工年度</p> <p>③完成予定年度</p>	<p>平成 29 年度：基本計画の策定</p> <p>平成 30 年度：基本設計</p> <p>令和 2 年度：実施設計</p> <p>令和 3 年度～令和 4 年度：建設工事</p>	<p>平成 29 年度：基本計画の策定</p> <p>平成 30 年度：基本設計</p> <p>令和 2 年度：実施設計</p> <p>令和 3 年度～令和 4 年度：建設工事</p> <p>令和 5 年度～令和 8 年度：撤去・外構工事</p>	—
<進捗状況>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体 87%</li> </ul>	
事業の必要性等に関する視点			

### 3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	—
--------------	---

#### 4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

<p>コスト縮減や 代替案立案等の 可能性の視点</p>	<p>&lt;現施設の改修について&gt;</p> <p>建て替えではなく、現施設の改修により対応することについては、以下のような課題があげられる。</p> <p>○ 現施設の設備改修として、各病棟の給排水設備をフロア毎に順次改修していくという方法が考えうるが、1Fの分娩室や2FのIRCU（呼吸器集中治療室）は、他に仮設の代替施設を整備するか、その間、医療提供の休止が必要となる。また、横方向（枝管）の給排水管は改修できても、上下方向の給排水管（縦管）までは改修できない等の限界がある。</p> <p>○ 上記の可能な範囲で改修を行う場合でも、今後10年間で少なくとも35億円以上の改修費が見込まれることに加え、その工事の際は、上下階の病棟を空床にする必要があり、工事期間中の患者コントロールにより大幅な減収が見込まれ、収益面でも大きなマイナス影響を受けることとなる。</p> <p>○ さらに、そうした改修で対応・改善できるのは、現在当センターが抱える課題のうち、非常に限られた項目に過ぎず、医療機能の高度化やバリアフリー化への対応、療養環境の不備等には、ほとんど改善効果が得られない。</p> <p>以上のように、現施設を改修するためには多額の費用が必要となるうえ、一部病棟の閉鎖が伴うなど当センターの医療提供に重大な影響を及ぼすとともに、老朽化対策としての一時的な延命策に過ぎず、病床面積や廊下幅など建物の構造上変更ができない点も多く、患者療養環境等の抜本的改善には至らない。</p> <p>また、当センターの抱える現状の課題解決や将来の医療需要を踏まえた今後の医療機能を提供していくためには、現地において建て替えが必要であると判断した。</p>
--------------------------------------	---

## 5 特記事項

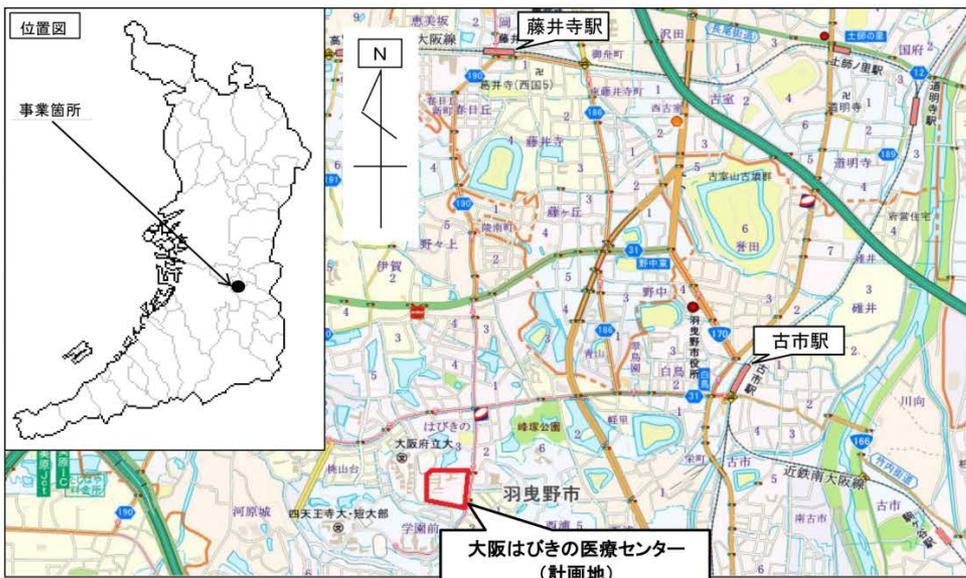
自然環境等への影響とその対策	基本計画にて、自然エネルギーの利用等、環境負荷に配慮した施設・設備とする旨、方針を定めている。 また、事業者の募集・選定にあたっては、これらに関する提案を求める。
事前評価時の意見具申（付帯意見）と府の対応	
上位計画等	
その他特記事項	

## 6 評価結果

評価結果	<p>○事業実施</p> <p>&lt;判断の理由&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・施設、設備の老朽化と、それに伴う過大な維持管理コストにより早急な対応が必要。</li><li>・手術室や外来、放射線検査室等の狭隘化、結核感染症患者と一般患者の動線同一による感染リスク等の課題改善による医療機能高度化への対応が必要。</li><li>・個室の不足や、外来診察時のプライバシー確保、小児の体格に不適合な小児科病棟など、患者療養環境への対応が必要。</li></ul> <p>以上の理由から、事業を実施する必要があると判断する。</p>
------	---

平成29年度 事前評価 (大阪はびきの医療センター新病院整備事業)

事業箇所図



地図出典 (C)2014 Shobunsha Publications,Inc.

計画概要配置パース



現況写真



写真①



写真②

標準断面図

○ 建物断面イメージ

○ 新病院の規模及び概算事業費

項目	内容	
建物延べ床面積	34,199㎡	
概算事業費	工事費	約144.5億円
	設計費等	約5.7億円
	撤去費等	約30.3億円
	医療機器	約31.7億円
合計	約212.2億円	

